



田口邦夫さん、昌子さん夫妻

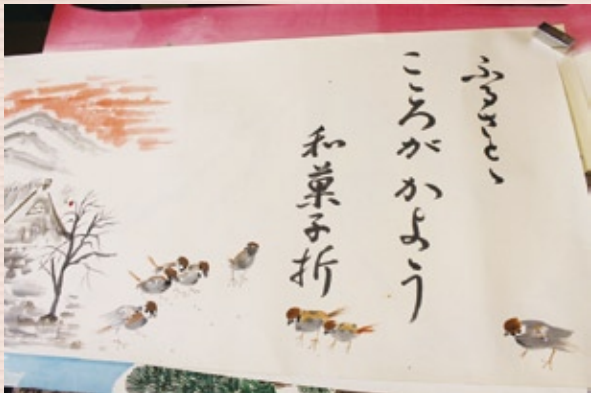
和菓子屋の嫁に

新橋烏森通りにある「御菓子司 文銭堂本舗」の入り口横には、大きな掲示板があります。その掲示板には、四季折々の風景や風物詩を描いた水彩画が大きく貼り出されています。

「サラリーマンの街」と呼ばれる新橋は、都会の喧騒にあって、文銭堂本舗は地元だけでなく遠方からも、和菓子を買求める人々で、常ににぎわいを見せています。なかには、水彩画に誘われて立ち寄って行く人もいます。

水彩画の作者は田口昌子さん。商品の題字や、掛け紙の挿し絵も手掛けています。昌子さんは、昭和23年（1948）10月20日に、文銭堂本舗の創業者であり、現会長の田口邦夫さんと結婚しました。当時の文銭堂本舗は、銀座の菓子店などへの納品が中心でしたが、同年11月15日に新橋店を開店。新婚当初から大変な忙しさだったそうです。

昌子さんの実家は鉄工所を営んでいました。鉄工所から和菓子屋へ。そのギャップに昌子さんは戸惑いました。「和菓子は人を笑顔にできる」との思いで、邦夫さんと二人三脚で店を盛り上



掲示用の作品

げてきました。そして店の役に立てればと、店頭

1枚の花びらから桜の木へ

昌子さんは、小学校のころから書道に親しんでいましたが、これをきっかけに書道を習い始めました。しかし、書道の文字と和菓子屋の文字とは違うとの思いから、かな文字のみを習い、漢字は自己流だそうです。

掛け紙の絵も、初めは花びら1枚を描くぐらいの簡単なものでした。そのうち新聞や本の挿し絵をかたわらに置いて真似てみたり、絵画鑑賞が趣味の邦夫さんと美術館に足を運び、展示作品を参考にしてみたりして習得しました。

昭和39年（1964）の東京オリンピック開催の年に、新橋店は現在の店舗に建て替えられました。そして新店舗入口横には、お寺の入口にあるような掲示板が、昌子さんの希望で作られました。その後、現社長である息子の雅章さんに店を任せるようになり、昌子さんは様々な情景を題材に大作を手掛けるようになりました。

邦夫さんは、昌子さんの作品を「絵に魂がこもっているね。このスズメもまるで生きていて、今にも飛び立ちそうだ」と話します。また、書道をたしなむ娘の真理子さんは「お母さんの字は、とても『美味しそうな字』ね」と言っています。昌子さんは「上手でもなんでもないんです。ただ、真面目に描いているだけなんです」と話します。一つの作品を仕上げるのに、何十枚も練習するということから、昌子さんの人柄がうかがえます。

とくに好きなテーマは「富士山」と「桜」。しかし、

伝統の
和菓子
を
まごころで
ささえる



商品の掛け紙の数々

最近は筆を持つ回数が減ってきたとのこと。「なんだかお話していたら、描きたくなくなりました」と昌子さん。その話を聞いた雅章さんは「お客様に喜んでいただけるのだから、ぜひこれからも描いてほしいですね」と話していました。

文銭堂本舗横の掲示板に、新作が貼り出される日も近いことでしょう。

【文 ■ 菊池 弓可】



文銭堂本舗 新橋店と掲示板

Information

文銭堂本舗 新橋店
新橋3-6-14
TEL 03-3591-4441

ザ・プリンス パークタワー東京



エクレアノエル



パティシエール 内野 愛さん

冬の寒さも本格的になってまいりました。皆さんいかにお過ごしでしょうか。12月はプレゼントやご馳走など、子どもも大人も待ち遠しいクリスマスがありますね！そして、スイーツをいただくのもクリスマスの楽しみの一つではないでしょうか。

今回は、クリスマスのひとときに華やぎを添えるスイーツレシピを紹介します。ザ・プリンス パークタワー東京のパティシエール、内野愛さんにクリスマスにおすすめの「エクレアノエル」のレシピを教えてくださいました。

フランスでは、女性のパティシエ（菓子職人）のことを「パティシエール」というそうです。「ノエル」は、フランス語でクリスマスをさします。それでは、レシピの紹介です！

エクレアノエル レシピ(2人分)

シュー生地

牛乳……………50ml
水……………50ml
グラニュー糖……………2g
バター……………40g
薄力粉……………60g
卵……………1.5個
塩……………1g

- 1 牛乳、水、グラニュー糖、バター、塩を鍋に入れて沸騰させる。
- 2 ふるった薄力粉を鍋に入れてよく混ぜ合わせ、生地がまとまるまで火にかけろ。
- 3 火を消し、ときほきた卵を少しずつ混ぜ合わせる。持ち上げた重みでボタボタと落ちるぐらいまで生地を混ぜる。
- 4 ③の生地を星口金を使い、天板に好みの大きさに絞る。
- 5 165℃のオーブンで約40分焼き上げる。

クレームパテシェール

牛乳……………100ml
卵黄……………1個
グラニュー糖……………20g
コーンスターチ……………4g
薄力粉……………4g
バニラビーンズ……………1/8本

- 1 鍋に牛乳、バニラビーンズとグラニュー糖10gを入れ温める。
- 2 残りのグラニュー糖とコーンスターチ、薄力粉を混ぜ合わせ、卵黄を加えよく混ぜ合わせる。
- 3 ②と牛乳と合わせ強火で炊き上げる。
- 4 すぐにボウルにあげ、氷で冷やし冷めたら裏ごししておく。

マスカルポーネデプロマツクリーム

マスカルポーネチーズ……………125g
クレームパテシェール……………46g
ホイップクリーム……………78g
バニラエッセンス……………少量

- 1 マスカルポーネとホイップクリーム、バニラエッセンスを混ぜ合わせておく。
- 2 クレームパテシェールに少しずつ加えれば、マスカルポーネデプロマツクリームの完成。

シューの大きさは、搾り出す生地の長さで調整できます。



仕上がったシュー生地にはたっぷりのクリーム。その上に内野さんが、次から次へとカラフルなフルーツやチョコレートをトッピングしている光景は、まるでクリスマスツリーに飾りつけをしているようでした。ぜひ、皆さんも思い思いの美味しいツリー「エクレアノエル」を作ってみてください。

【文・写真 ■桑原 庸嘉子】



概要

平成17年(2005)開業。
「でかけろ人をほほえむ人へ」がコンセプト

Information

ザ・プリンス パークタワー東京
芝公園4-8-1 TEL 03-5400-1111

芝の食文化



ぱりっと焼けた皮とふっくら軟らかい身、香ばしいタレがご飯にからんだうな重は、日本人が好きなごちそうです。

うなぎは栄養豊富で夏のスタミナ食という概念がありますが、一年中食べられており、世界中で一番多く消費している国が日本です。

ところが、乱獲や海洋環境の変化と汚染によりうなぎの漁獲量は激減し、この4年間は品薄により価格がうなぎ登りに高騰しています。そこで環境省は、ニホンウナギを絶滅危惧種に指定しました。縄文時代から食べ続けられているうなぎは、その生態が今まで謎のベールに包まれていましたが、平成21年(2009)5月、グアム島沖のスルガ海山で日本の海洋研究チームによって世界で初めて天然うなぎの卵が発見されて採集されました。

うなぎは夏に深海で生まれ、36時間で孵化し、約半年で透明なシラスウナギの稚魚になり、黒潮に乗って日本の河口に集まって来ます。やがて体色が黒ずんできるとうなぎになり、晩秋から早春に群れをつくって川を遡上する頃成魚に成長し、河川や湖沼で5～10年生息し、産卵のためまた海へ帰



創業から綿々と続いている味が伝わるうな重

て行きます。鮭とは逆の生態なのです。川を下るうなぎを落鰻といい、脂が乗っていてとても美味です。

身を背から開いて焼いて蒸し、タレを着けてまた焼く方法(関東風)は安永(1772～1781)から天明(1781～1789)の頃に作られました。

それまでは口から竹串を刺して焼き、溜醤油を付けて焼いたり、筒切りにして串を刺し、塩を振って焼くという方法でした。

うなぎが登場したのは文化年間(1804～1818)に、日本橋の芝居小屋主の大久保今助が考案しました。丼のご飯の間にうなぎを挟み、蓋をして出前させたのですが、これが温かくとても風味がよいと評判となり、市中に広まって流行りました。この時に初めて使い捨ての割り箸が添えられました。

西新橋3丁目の日比谷通りから一つ入った路地、東京慈恵会医科大学附属病院のそばに、うなぎ屋「本丸」があります。本社は文政10年(1827)に芝田町(現 芝3丁目)、海老屋鉄五郎が徳川二の丸御用商のうなぎ卸商「海老屋」を創業。うなぎを焼くときに手を使って扇風でばたばたと

風を送ることから、しだいに「お馴染みさんたちから「ての字」と呼ばれるようになりこの屋号に変わりました。

時の将軍、徳川家斉はことのほかうなぎが好物だったそうで、市民もこぞって食べたので海老屋は大繁盛しました。



身3、皮1回の焼き加減とタレは創業以来受け継がれている職人の技

店の1階には、お弁当を売るワゴンとうなぎを焼く大きな炉と秘伝のタレが入った甕が見られます。奥には各地から夜明け前に届けられたたくさんのうなぎが産地別、目的別に分けられて幾重にも重なった桶に入っています。地下水から汲み上げた井戸水が上から落とされ、

うなぎたちは元氣よく動いています。中には1匹360gもあるうなぎもいるそうで、驚くほどの大きさです。

「海からシラスウナギを採って国内で育てたものは国産と言っています。当社は鹿児島、宮崎、愛知産のものが中心ですが、その時の仕入れ状況により他県にも注文しています。このご時世ですから海外からも仕入れています。外国産も技術が向上して品質が高くなっています」と、人事部の島

おもてなし心を配る阿部佐智江店長(左)、調理場担当の眞下拓也さん



田賢一さんは国産と遜色がなくなっている」と説明します。

2階が食事処で、屋はいつも混み合っています。うなぎ重とともに注文の多いのが信長丼。きざみのりと青ネギがたっぷりと添えられ、ひつまぶしのようになっています。味はもちろんのこと、お客様へのサービス精神に徹しているところが人気を支えているのでしょう。「なるべく価格を抑えながらサービスにも心を配ってクオリティの高いお店にしています」と、阿部佐智恵店長はてきぱきと切り盛りしています。

養殖技術がもっと進化して手頃な価格で食べられるようになるには、あと10年ほどかかるそうですが、早くその時が来るのが待ちどおしいかぎりです。

【文 ■千葉 みな子 写真 ■町田 明夫】

●参考文献
田井 友季子著「夢想 江戸時代の大ハヤリ食」農山漁村文化協会
堀 和久著「江戸風流「食」はなし」講談社
フロントランナー(平成25年5月18日付) 朝日新聞

Information

本丸
西新橋3-19-12 TEL 03-3432-2564

(人名は敬称略)

私は、芝(現新橋)で生まれ育ちました。中学時代の音楽教諭、芥川也寸志(作曲家)と出会い大きな影響を受け、アマチュア・チェリストとして、人生を歩んでいます。

チェロとの出会い

チェロとの運命の出会いは、高校2年生の時です。NHK 交響楽団が演奏する「わが恋のならざるがごとく、この曲もまた未完成なり」と譜面に書き有名なフランツ・シュベルトの未完成交響曲を聴き、チェロの詩的で力強く、生き生きとした音色に魅了されました。それを機に、チェロを学ぶことを決め、高勇吉に手ほどきを受け、その後、清水勝雄に師事を仰ぎました。高勇吉は、ライブツィヒ音楽院でユリウス・クレンゲル氏に師事した当時第一人者のチェリストです。高勇吉の夫人がドイツ人であったため、次第にドイツ語にも慣れ親しむことができました。



現在もチェロをたしなむ石川さん

寄稿 石川嘉一さん

わが音楽は愛と喜び アマチュア・チェリストとして

慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラと新交響楽団

慶應義塾大学には、明治34年(1901)に創立された日本最古のアマチュア学生音楽団体、慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ(以降ワグネルに省略)があります。私は、このワグネルのチェロパートに入団しました。当時は、西洋音楽(バッハ、モーツァルトはもちろん、フランス、ロシア音楽など)のみならず、邦人作品など、さまざまな楽曲を演奏したものです。中でも一番の思い出は、慶應義塾創立125年記念式典で、ワグナー作品2曲を指揮したことです。また、ワグネル創立50周年(昭和25年(1950))と100周年の記念演奏会(平成13年(2001))に参加でき、50年以上にわたりワグネルの発展に関われたことも思い出深い事です。

社会人になってからは、芥川也寸志が音楽監督をしていた新交響楽団(昭和31年(1956)創立)に入団しました。「音楽はみんなのもの」という理念に共感し、その後43年間在籍しました。新交響楽団は、プロの技術でアマチュアの熱意を持って演奏しよう、という熱意あふれるアマチュアオーケストラです。新交響楽団の一員として、旧ソ親善演奏旅行(昭和42年(1967))、ベルリン芸術週間演奏会(平成5年(1993))でも演奏しました。芥川也寸志の指導のもと、アマチュアならではの時間をかけた練習をし、ストラヴィンスキー三



慶應義塾創立125年記念式典で指揮をしました

部作(火の鳥、ペトルーシュカ、春の祭典)にも挑戦。昭和51年(1976)には邦人作品の演奏活動が評価され、新交響楽団がサントリー音楽賞を受賞したことも大きな喜びとなりました。

平成10年(1998)には、「1000人のチェロ・コンサート」に出演しました。チェロを弾くことで阪神・淡路大震災で被災された方々を勇気づけようと、プロ、アマチュアを問わず世界各国から1,000人を超えるチェリストが神戸に集結し、被災地の復興と平和への祈りを込めて行われた演奏会です。1,000人以上のチェリストが12パートに分かれ一

つの楽曲を奏でる感動は、忘れ難いものとなりました。その想いを共有した世界各国のチェリストとの出会いは、以後の私の音楽活動を更に豊かにしてくれました。この素晴らしい演奏会には、第1回から全て参加しています。平成27年(2015)には東日本大震災の復興を祈念した第5回演奏会が仙台で開かれる予定で、私も演奏会に参加できるよう、現在も練習に励んでいます。



第1回1000人のチェロ・コンサート(神戸)

日本人なら多くの人が知っている「忠臣蔵」ですが、どのように作られたストーリーなのでしょう？当時の江戸を賑わせた「元禄赤穂事件」を元に脚色を加えた演目なのは広く知られていますが、どんな事件だったのかおさらいしてみよう。

江戸時代中期元禄14年（1701）に江戸城松之廊下で浅野内匠頭が吉良上野介に斬りかかり、その日のうちに切腹を言い渡されます。天皇の使いを迎える儀式の最中に起こった事件であり、徳川五代將軍綱吉が朝廷への体面を保つために即日切腹を申し付けたとも言われています。今でも浅野内匠頭と吉良上野介との間にどんな問題があったのか、はつきりとした資料は残っていません。

浅野家5万石が治めていた赤穂藩は改易され大名の身分、城や領地、屋敷などが没収され、藩の武士も浪人となってしまいます。そんな中、赤穂藩の筆頭家老だった大石内蔵助は御家再興のため江戸で嘆願して回ります。しかしそれも叶わず、仇討ちを誓う46名の赤穂浪士と決起し、吉良邸へ討ち入りすることになります。

討ち入りは元禄15年（1702）12月14日の深夜

汐留



当時、この付近には汐留川が流れ「新橋」と「汐留橋」という橋がかかっていました。赤穂浪士達は「汐留橋」を渡り、東海道を進みます。東海道には脇坂淡路守、伊達陸奥守、松平肥後守などの大名屋敷が並んでいました。それぞれの屋敷前には門があり、許可なく通れません。しかし赤穂浪士たちはここで仙台藩（伊達家）から粥のもてなしを受け、会津藩（松平家）でも審問なしで門を通過したといわれています。



江戸時代の仙台藩上屋敷跡

に始まり、吉良家の家臣たちとの乱闘の末15日の早朝に吉良上野介の首を討ち取ります。その首を浅野内匠頭の墓前に供えるため、吉良邸のある両国から泉岳寺まで、赤穂浪士たちは約12kmの道のりを重い武具をつけたまま歩いて行きました。泉岳寺に辿り着いたのは朝9時頃だと言われています。この「元禄赤穂事件」を題材に、宝永3年（1706）、近松門左衛門による人形浄瑠璃「碁盤太平記」が上演されます。その後似たような作品が次々と生まれ、集大成として竹田出雲らによって人形浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」が完成し、大好評だったことから歌舞伎でも上演されるようになります。江戸時代に誕生したこの「忠臣蔵」は現代に至るまで映画や舞台・ドラマなどで繰り返し制作され、お茶の間のエンターテインメントとして多くの人を惹きつけてきました。自分の命に代えても君主の仇を討とうする忠誠心や強い信念といった、日本人の心性に根ざした物語といえるでしょう。

【文 ■ 作田 宗子】

参考文献
財団法人中央義士会「元禄の軌跡 赤穂義士の引揚げ」彰幸社
※元禄赤穂事件の解説と諸説があります。

金杉橋



大門駅を通過すると首都高速道路（都心環状線）の下に金杉橋があります。この付近には義士の一人、磯貝十郎左衛門の兄の家があり、母が病に伏せていました。それを知っていた大石内蔵助が会ってくるよう勧めますが、磯貝は「まだ引き揚げの途中で追手がいつ来るか知れない。自分だけ特別扱いは不本意であり、既に別れはしてきているので結構でござる」と断ったという逸話が残されています。



札の辻



義士たちは吉良上野介の長男で米沢藩上杉家（屋敷は現在の日比谷）の藩主となった綱憲からの追手が来るかもしれないと恐れていましたが、その可能性も薄らぎ安堵してました。討ち入り後、吉良邸（現在の両国）から歩き続けてきた義士たちは皆疲労困憊で列は乱れ、ここ札の辻で間新六がバツリ倒れこんでしまいます。父喜兵衛から「ここまで来たのに不甲斐無い奴だ。もう少しだ」と叱られると間新六は立ち上がり、泉岳寺に向かってまた歩き始めたそうです。

御田八幡神社



討ち入り計画にリーダーの一人として参加していたものの、父方の伯父の養子に入り脱盟者となった高田郡兵衛が、御田八幡神社で酒樽を持って義士たちを迎えます。「只々、お疲れでござる。一献参らんと酒樽をお持ちした」と麻祿の正装姿で現れたにもかかわらず、脱盟したことで義士たちから怒りを買っていた郡兵衛に答えたのは堀部弥兵衛ただ一人だったという。弥兵衛は「ご覧あれ、吉良を討って只今引き揚げでござる」と言ったという説もあります。

芝は「忠臣蔵」故地の宝庫

～赤穂浪士引き揚げルートとゆかりの地～



- ①浅野内匠頭終焉の地
- ②新正堂
- ③義士洗足の井戸（仙石伯耆守邸跡）

当時、泉岳寺の手前1km程の間には、荷を引くための牛が千頭程飼われており、車町（俗称は高輪牛町）と呼ばれていました。左手には品川の海が広がり、牛の臭いがする中、義士たちは体に鞭打って、最後の力をふりしぼり歩きます。沿道には義士を一目見ようと人々が集まっていた。泉岳寺には、浅野内匠頭と47士の墓や供養塔が一画に集められています。その入り口にある門は浅野家の上屋敷にあった裏門が移築されたものです。



泉岳寺

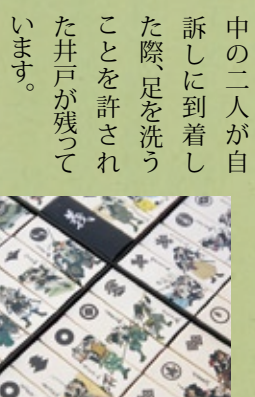


江戸図鑑網目 港区立港郷土資料館提供



浅野内匠頭終焉の地

すぐ寄れる
チェックポイント



新正堂 四十七士義士ようかん



義士洗足の井戸

せんか 泉下においてお目に懸り、これまでのお礼を申し述べる存念

そう言って、源蔵はホロリと涙を落とし、持参した酒を湯呑みで酌み交わしたのち、立ち去りました。

その日の深夜、本所松坂町の「吉良上野介」邸に討ち入り、翌15日早朝、本懐を遂げた一行は、汐留橋・宇田川橋・金杉橋を渡り、主君の眠る「高輪泉岳寺」に向かいます。

東海道沿いには、大勢の庶民が忠義を尽くした一行を見送ったことでしょう。元禄時代を代表する「大事件」が、芝も舞台として登場しております。まさに芝は、歴史文化の宝庫といっても良いでしょう。

【文 ■ 清田 和美】

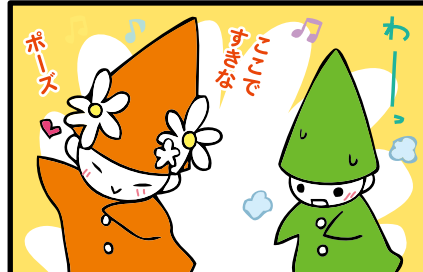
参考文献

碧瑠璃園著
「定本講談名作全集」第7巻
(株)講談社 昭和46年2月20日刊
「碧瑠璃園名著」「仇討 義書」
第6編赤穂源蔵
大鑑閣 大正11年5月10日刊
中江克己著
「忠臣蔵と元禄群像」
並木書房 平成10年9月20日刊
徳川種郎著
「赤穂義士研究」
(有)大東書館
昭和17年1月15日刊



イラスト・もりいくすお

にがてなこと



eco design 糸え・まつもとがずこ



菊池寛実記念 智美術館



るフレンチレストラン「ヴォワ・ラクテ」があり、美術館を訪れた方だけでなく、虎ノ門で働く方々や各国の大使館の方にも人気のレストランです。

今回は、智美術館 学芸員の島崎慶子さんとヴォワ・ラクテ 料理長の原田泰生さんにお話を伺いました。

「当館のコレクションは、富本憲吉、藤本能道、鈴木藏など、現代陶芸を語るには欠かせない作家たちの作品を中心に形成しており、特に藤本能道の作品のコレクションは、質・量ともに随一を誇ります。当館は常設スペースを設けておらず、年間4回程開催する企画展の一つとして、コレクション展を開催しています。12月は、『現代の名碗』展を開催中です。茶道美術の第一人者であり、茶人でもある前館長の林屋晴三さん選定により、川喜田半泥子の茶碗をはじめ、加藤唐九郎、三輪壽雪などの作家から、鈴木藏、十五代樂吉左衛門、さらに30代の若手作家にいたるまで、およそ40名の作家の茶碗を展示しています。展示を通して鑑賞者と作品や

作家との出会いの場にもなればと考えています。また、国の登録有形文化財である西洋館は、1〜2ヶ月に1回、限定公開しています」と、島崎さん。

また、原田料理長は「常に、美術館や庭園という素晴らしい空間に調和した料理を提供したいと考えており、季節に合わせ年4回メニューが変わります。12月からのメニューは、定番である真鯛の白子のムニエルなど、奇をてらわずに素材を生かした料理を提供できればと考えております」とのことでした。

皆さんも現代陶芸との出会いを求めて、また都心の中で独特な空間が体感できる「菊池寛実記念 智美術館」へ足を運んでみては、いかがでしょうか。

【文 ■ 日沖剛】



Information

菊池寛実記念 智美術館
虎ノ門 4-1-35 西久保ビル
【展覧会開催中の開館時間・休館日】
開館日：火〜日曜・祝日 午前11時〜午後6時
休館日：月曜、年末年始
※月曜が祝日の場合は開館し、翌火曜が休館日となります。
TEL 03-5733-5131 (智美術館)
TEL 03-5733-5135 (ヴォワ・ラクテ)

芝のNewコミュニティ

芝地区にも、「美」をみたく新しいスポットが増えています。今回は、美に携わる2人に芝地区の魅力を語っていただきました。

平成18年(2006)に芝三丁目でネイルサロン「Amour(アムール)」を開業した本橋愛子さん。「爪先からの幸せ」がコンセプト。白を基調にした明るい店内、スタッフたちが笑顔で迎えてくれます。本橋さんのお店では、幅広い層のお客様がリピーターになっています。「お客様は、芝地区の企業に勤めている方から、暮らしている方までさまざまです。女性はもちろんですが、男性で、高齢の方も来店されます。落ち着いた感じのお客様が多く、自分磨きの時間を大切にしていってほしいようです。これは芝地区の特徴ですね」と、本橋さん。土曜日や午後8時までの営業は、区内在勤・在住者が通いやすいようにとの思いから、「いつでも気軽に来ていただくことで、さらにお手入れの大切さを伝えたい」と、にっこり。

ネイルサロン
「Amour(アムール)」
芝3-43-11 TEL 03-6303-1377

バレエ・ヨガ教室
「axis enjoy dancing
(アクシスエンジョイダンシング)」
芝5-16-4 TEL 090-7869-9942

「普通は、お勤め帰りの方か、住民の方のどちらかに偏ることが多いのですが、芝地区はどちらの方も教室に通ってくださいます。だから、平日はお勤め帰りの方、土日は住民のために、時間を変更してレッスン・スケジュールを組んでいます」と話してくれるのは、芝五丁目バレエ・ヨガ教室を開講している数下亜佐美さん。劇団を経て、新橋でバレエ・ヨガ教室を開講した数下さんは、通勤で利用する駅に近い立地で「大人の部活」をイメージし、「教室を作るなら芝地区」との思いから、「axis enjoy dancing(アクシスエンジョイダンシング)」を平成20年(2008)に開講しました。劇団やバレエ団出身の講師が、美しく健康的な身体作りをサポートしています。「芝地区は、身体のメンテナンスに時間を使い、ケアをされる方が多いようです。女性だけでなく、男性も無理のない体力作りのためにレッスンに参加。うれしいことです。教室のコンセプトでもある『大人の部活』にふさわしい地区だからこそ、もっと多くの人が身体のメンテナンスにバレエを取り入れてくださるといいですね」と、数下さん。

本橋さん、数下さんが抱く芝地区のイメージとは、老若男女を問わず、自分自身のケアを大切にしている方が多いということ。だからこそ、芝地区には、美に関する新しいスポットがだんだんと増えているのでしょう。人々が健康で美しく、笑顔あふれる芝地区であり続けてほしいと思います。

【文 ■ 早川由紀】

芝にある風景

虎ノ門砂場

絵・文 大野正晴



そば屋 砂場 M. Ohno

今年もあつという間に師走になりました。大晦日にはそばを食べ新しい年を迎える人も多いのではないのでしょうか。私もそのうちの一人です。江戸っ子である私にとって、そばはいつでも食べたい味。そんな私がちよくよく訪れているそば屋が虎ノ門一丁目にある「虎ノ門砂場」です。創業は明治5年(1872)。現存する建物は大正12年(1923)に建てられた木造3階建ての和風建築で、今でも風情があります。

昼は混み合っていますが、夜は落ち着いた雰囲気ので、ゆったり過ごせるのが気に入っています。席に座ると、桜エビの天ぷらと焼酎のそば湯割りを注文し、ぐいっと一口。締めはせいろをいただきます。そば本来の味を楽しむため、そばを出汁の効いた味わい深いつゆにちよつとだけつけ、一気にすずり味わいます。私にとって風情や時代を感じながらゆったりと食を楽しむことができる店です。

●大野正晴
昭和26年(1951)生まれ。新橋で生まれ育つ。幼少の頃から絵に興味を持ち、約50年間にわたり、スケッチやイラストを描き続けている。作品にはファンも多く、ボランティアなどの活動を通じ、作品の寄付なども行っている。35年間新橋タカク全物(株)に勤務。

港区立芝小学校

今年で開校135周年を迎えた港区立芝小学校。長い歴史で培った校風を守りながらも、複数担任制など新しい試みにも挑戦しつづけています。そんな伝統校の運営委員会の皆さんに芝小学校の魅力について語っていただきました。

いて、学校全体で食べ残しが少ないところも自慢です。
森田くん 複数担任制なので、褒められる時は2倍で嬉しいです。

渡邊くん 先生はみんな優しいです。お母さんより優しいです(笑)

Q2 東日本大震災から3年目を迎えようとしています。普段の生活でどのように震災に備えていますか？

関さん 大震災直後、手動式の懐中電灯を5つ購入し、家族でそれぞれが持っています。

大江さん 非常用の持ち出しバッグを家族が1人ずつ用意しています。

國本くん 僕の家は非常食の備蓄をしていて、ときどき新しいものに交換しています。

有賀くん 僕の家でも、4人家族で1週間分過ごせる非常食を用意しています。

渡邊くん 部屋のガラスが割れないよう飛散防止シートを貼る、ドアを開ける、自転車のヘルメットをかぶる、机の下にもぐるなどの行動ができるよう心がけています。

船橋さん 私はガールスカウトに入っているのですが、ガールスカウトで習ったことを生かせるようにしたいと思っています。

森田くん いざという時に行動できるよう、1カ月に1度学校で行う避難訓練をしっかりと取り組むようにしています。

鈴木くん 僕は、家族と離ればなれの時に地震が起きても会えるよう、家族と集合場所を決めてあります。

取材当日は、10月半ばというのにとても暑い日でしたが、8人全員冬服で対応してくれました。みんな緊張気味でしたが、質問に丁寧に答えてくれたのが印象に残りました。【文 ■ 湯原 信一】



関 ひかりさん
①委員長
②体育
③サッカー関係の仕事
④運営委員会
⑤得意教科
⑥将来の夢



大江 陽和さん
①黒板書記
②社会
③トイマー



船橋 夏海さん
①黒板書記
②体育以外
③国際経済アナリスト



國本 航士くん
①ノート書記
②社会・理科
③サッカー選手



渡邊 亮太くん
①クラスノート書記
②社会・理科
③恐竜博士



森田 寛大くん
①副委員長
②理科
③地方公務員



有賀 健斗くん
①クラスノート書記
②理科
③パイロット



鈴木 健太郎くん
①ノート書記
②体育・図工
③医者

河上学習塾

芝で塾を始めたのは、約50年前。現在も芝小学校のすぐそばで、河上塾長は、芝の子どもたちに「理解することを楽しめる勉強」を教えています。



河上良昭塾長

Q1 塾を始められたきっかけは何ですか？

約50年前に私の両親が芝で鉄工所を経営していた当時、社員の余興といえ、パチンコ。みんながパチンコばかりやっている様子を見て「玉をはじくなら、そろばんの珠をはじく」と私が提案し、社員に寮でそろばんを教えたのが始まりです。そのパチパチと響く音に興味を持った近所の子どもたちが集まり、いつの間にか塾となりました。

Q2 当時は高校の先生だったそうですが？

そうです。私立の商業高校で商業全般を教えていました。高校の授業と学習塾を掛け持ちしていたので、当時は睡眠時間が少なかったですね(笑)。

Q3 河上学習塾の教育方針は？

個別指導を行い、「分かりやすい」授業を心掛けています。分からなかったことが理解できる。そうすれば生徒に自信が湧き、勉強が楽しくなるのです。

Q4 教育環境が年々に変化していますが？

今の子どもは、素晴らしい環境に置かれていますが、自分で創り出す力が弱いと思います。だからこそ、この塾が、自信とともに発想力や想像力を養う場所にできればと思っています。

私も学生時代に家庭教師をやりましたが、教え子の成績が伸びることが本当に良かったです。お話を聞いて河上塾長の子どもたちに対する情熱に心打たれました。

【文 ■ 湯原 信一】

芝地区MAP

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをまとめました。ウォーキングマップとしてご活用ください。



- ①文楽堂本舗 新橋店→P1
- ②ザ・プリンス パークタワー東京→P2・3
- ③本丸→P2・3
- ④菊池寛実記念 智美術館→P6
- ⑤芝小学校→P6
- ⑥Amour→P7
- ⑦axis enjoy dancing→P7
- ⑧河上学習塾→P7
- ⑨虎ノ門砂場→P7
- ⑩芝の地域力 再発見事業拠点「芝の家」→P8



芝会議からのお知らせ

区民参画組織「芝会議」は、地域の皆さんと芝地区総合支所が地域の課題を抽出し、解決する仕組みとして発足しました。現在は、「まちの魅力発掘部会」「まちづくり部会」「地域コミュニティ部会」「地区版計画推進部会」の4部会で構成され、各部会を月に1回程度開催しています。

芝会議では、地域の課題を一緒に考えていただけるメンバーを募集しています。

まちづくり部会

まちづくり部会では、誰もが、いつまでも、安全に安心して住み続けられ働き続けられるまちをめざして、主に「防災」と「環境」をテーマに活動しています。東日本大震災以降は、大地震の発生に備え、自らが準備しなければならないこと、取るべき行動、その中での役割などについてどのようにしたらよいか考えています。さらに、地域に広める方法についても検討しています。皆さん、首都直下地震への備えは大丈夫ですか。「いざというときにどうしたらよいか」を立場は違うと思いますが一緒に考え、行動していきませんか！

部会メンバーは現在13人。芝地区の在住・在勤者で、年齢・職業も異なりますが、それぞれの知識・経験を活かして和気あいあいと活動しています。

一年間の活動内容は、「防災セミナー」、「防災体験ツアー」、「防災出前講座」、「地域防災マップの作成支援」などです。

問合せ先 芝地区総合支所協働推進課まちづくり推進担当
TEL 03-3578-3104

●今年の主な活動



3月11日

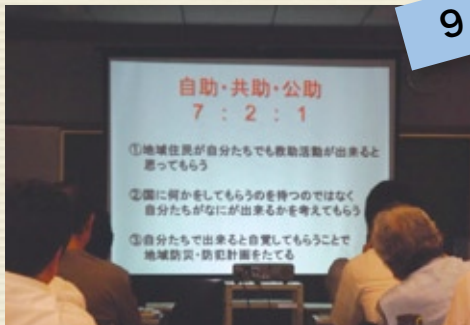
神明いきいきプラザとの共催により、防災セミナー「震災後2年を迎えてーコミュニティはどうなったかー」を開催しました。東日本大震災の被災地で住民の方々とコミュニティ活動を立ち上げた3名にそれぞれの経験を語っていただき、参加者と意見交換をしました。

6月8日

「第8回ふれ愛まつりだ、芝地区！」にブースを出展しました。東日本大震災を忘れないために、被災地（仙台市）の津波被害を受けた道路標識などを展示しました。毎年行っている防災アンケートでは、震災前後でアンケートの回答も変化していることがわかり、今後の部会活動の参考としました。アンケート結果は港区ホームページで見ることができます。



9月11日



「自治体レベルから町会までの危機管理を考えようー最前線の災害対応マネジメント手法を学ぶー」について勉強しました。ICS（Incident Command System）という緊急災害対応システムを実際に活用した岩手県の事例等を通して、万が一のときのためにどのように準備し行動すべきかを学び、討論しました。

芝の家から

「芝の家」は、安心して暮らすことができる地域づくりをめざし、あたたかい人と人とのつながり・支えあいを再生することを目的として、慶應義塾大学と芝地区総合支所が協働で運営しています。ぜひ、気軽にお越しください。



「コミュニティ喫茶」：火曜・木曜
「駄菓子と昔あそびのあるスペース」：水曜・金曜
「大人も子ども誰でもようこそ」：土曜
イベント等について詳しくは、「芝の家」ホームページをご覧ください。

問合せ先

芝の地域力再発見事業拠点「芝の家」
芝3-26-10 TEL 03-3453-0474
火～土曜 正午～午後5時
ホームページ <http://www.shibanoie.net/>

芝地区掲示板

お知らせ

わが町の青少年委員・スポーツ推進委員

青少年委員・スポーツ推進委員は、教育委員会が委嘱している非常勤の公務員で、中学校区ごとに活動しています。

青少年委員は、青少年対策地区委員会事業「みなとキャンプ村」や地域での行事などをはじめ、地域における青少年健全育成の中心的役割を担っています。また、地域と行政とのパイプ役としてさまざまな活動を行っています。

スポーツ推進委員は、地域スポーツの推進者として地域スポーツ教室の企画運営、教育委員会などの行政機関が行うスポーツに関する行事への協力、スポーツの実技指導をしています。

地域の皆さんが健康で楽しく豊かな毎日を送るための幅広い活動を行っています。青少年を育て、仲間づくりをする際に、分からないこと、困ったことがありましたら、遠慮なくご相談ください。

問合せ先

青少年委員について
生涯学習推進課生涯学習係
TEL 03-3578-2743

スポーツ推進委員について
生涯学習推進課スポーツ振興係
TEL 03-3578-2747



青少年委員とスポーツ推進委員との交流会の様子

お知らせ

東京都水道局からの お知らせ



高度
100

利根川水系
高度浄水100%

東京都水道局では、三郷浄水場など利根川水系の浄水場への高度浄水処理施設の導入を進めており、港区に供給される水も、全量がより安全で、おいしい高度浄水処理水になりました。ミネラルウォーターとの飲み比べでも、約半数の方が、水道水の方がおいしいと感じています。皆さんも是非この機会に、水道水を直接飲んでみてください。

東京都水道局

水道事業への皆さまのご理解、ご協力により、区内の水道水は、**高度浄水100%**になりました。

問合せ先 東京都水道局港営業所
TEL 03-5444-2091

●本誌の制作には以下の編集委員が参加しています。
菊池弓可／清田和美／桑原庸嘉子／作田宗子／
柴崎郁子／柴崎賢一／千葉みな子／早川由紀／
日沖剛／町田明夫／森明／湯原一（五十音順 敬称略）

●今後の発行スケジュールは次の通りです。
H26.3.1発行(第30号)、H26.6.1発行(第31号)、
H26.9.1発行(第32号) H26.12.1発行(第33号)

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1～3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、区内各施設等で配布しています。

芝地区地域情報誌編集委員を募集しています！

芝地区の話題を発掘、取材し、執筆していただく地域情報誌編集委員（記者）を募集します。

- 対象 芝地区管内に在住、在勤、在学で取材に携わりたい人
- 内容 地域の問題の収集、取材、写真撮影、原稿作成など（年4回発行予定）。発行予定ごとに平日の昼夜間に2時間程度の取材と、平日夜間に2回程度編集会議への参加があります。
- 申込み 氏名、住所（在勤、在学の方は所在地）、連絡先、在住・在勤・在学の区別を明記の上、下記の芝地区総合支所協働推進課まで、ファックスまたは郵送でお申込みください。
- その他 報酬、交通費等の支給はありません。



港区芝地区総合支所協働推進課

〒105-8511 港区芝公園1丁目5番25号（港区役所2階）
TEL 03-3578-3193 FAX 03-3578-3180

ホームページ

<http://www.city.minato.tokyo.jp/>